

出張報告

報告日 令和6年 8月30日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	地方公共団体における行政評価の最新動向と有効活用のポイント
日 時	令和6年8月14日（水） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・地方公共団体における行政評価導入の経緯 ・行政評価の一般的枠組み ・EBPM への取組の要請と行政評価への影響 ・適切な評価指標の設定と活用
概 要	○地方公共団体における行政評価導入当時の状況 ・行政評価は平成12年前後に各自治体に導入された。当時の定義は、「政策、施策および事務事業について、成果指標等を用いて有効性または効率性を評価するもの」。PLAN（計画）→DO（実践）→SEE（評価）の循環。 ・近年の定義は、「政策、施策および事務事業について、事前、事中、事後を問わず、一定の基準、指標をもって、妥当性、達成度や成果を判定するもの」。PLAN（計画）→DO（実施）→CHECK（評価）→ACTION（改善）の循環。 ・住民満足を価値基準にしたアウトカムで評価する。 ○行政評価の目的に応じた取組 ・ねらいは2つある。 総合計画の進捗管理（成果がどれだけ上がったか）→評価の対象は総合計画に位置付けられた政策、施策、事務事業 行財政運営の効率化（無駄をなくす）→評価の対象は予算事業 ・京都市の行政評価システム 政策評価→26の政策と106の施策を対象→担当は企画 事務事業評価→約2000の事務事業を対象→担当は行革 ○評価の枠組みとしてのロジックモデルによる情報の体系化 ・ロジックモデルとは、事業や施策に係る投入資源、資源を用いて実施する活動、それにより生み出す結果、結果がもたらす直接的効果や社会適正化など、評価に関連する各段階の情報の整合性と因果関係を明確にし、体系化するもの

	の。頭の中を整理するフローチャートです。 ・行政評価においては、目的の達成度合いを効果または成果を表す評価指標を用いて評価を行う。 ○EBPM への取組に係る要請 ・EBPM とは、エビデンスに基づく政策立案のこと。 ・エピソードベース（たまたま見聞きした事例や限られた経験のみに基づき政策を立案）では政策とその効果の分析が不十分。 ・エビデンスベース（変化が生じた要因についての事実関係をデータで収集し、どのような要因がその変化をもたらしたかをよく考える）では、データで検証して政策を立案する。 ○行政評価における評価指標の役割 ・インプット指標（資源の投入）→当該施策の目標達成のためにどれだけの行政資源を投入したか（投入された行政資源を表す） ・アウトプット指標（投入の結果）→当該施策の目標達成のために何をどれだけ実施したか（目標達成に向けた取組の実績、行政サービスの提供を表す） ・アウトカム指標（投入の成果）→当該施策の目標がどれくらい実現したか（目的に即した成果を表す）
所 感 等	【重野正毅】 他の自治体に行政視察に行くと、議会としては行政評価を行っていない、というところが少なくない印象であった。柏崎では行政評価としての施策事務事業をごく一部であるが行っている。そのことで施策や事務事業が市民の福祉の増進にいかにつながっているのかという視点で見ることができるため、行政のチェック機能の一端を担っていると考えられる。 評価の指標をアウトプットからアウトカムにして、事業の「結果」ではなく、「成果」を評価していくようにすることの意義を改めて感じた。これからの決算審査、事業評価を行っていく上で、必要な視点として議員間で共有したいと思う。 また、EBPM という話の中では、今回の行政評価とは少し違うが、議員として的一般質問の在り方を考えさせられた。エピソードベースで提案するのではなく、エビデンスのある、データを収集したうえでの提案が必要だということを痛感した。

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	重野正毅
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	地方議会・議員と行政評価
日 時	令和6年8月14日（水） ～
場 所 （会場）	映像視聴で研修
調査項目等	・議会としての行政評価 ・議員としての行政評価
概 要	○議会としての行政評価 ・行政評価は1990年代から行政不信を払しょくするために導入されたツール。行政評価とは事務事業の中身をしっかりとチェックして次のことに生かす。事業ごとに目標値を掲げてその目標値が毎年うまくいっているかをチェックする。 ・先進的に取り組んでいる自治体 茨城県守谷市、東京都多摩市、石川県かほく市、長野県飯田市、静岡県富士市、徳島県小松島市、群馬県板倉町 ・一般的な傾向 条例を根拠に実施、予算決算委員会内での議論、当該分科会や他の委員会が評価対象事象を抽出、メタ評価、首長に提言、首長からフィードバック ○議員としての行政評価（効果の評価ではなく別の視点から考える） ・問題はなぜ発生するのか。理由は一つではない。問題を中心に原因と結果を考える。 ・ステークホルダー分析。原因に関係するステークホルダーの目的や関心を調べる。 ・SWOT分析。原因克服のため、自らの置かれた強みや弱み、外部からのチャンスや脅威を把握する。 ・実行可能性分析。もし解決策を思いついたなら、その実行可能性を考える。 ・事業がなぜ成果を生むのかということを理屈で順を追って説明してくれというのが議員の役目。 ・総合計画でどういうことをしようとして、どういう方向性を考えていて、こういう方向性を選んだ理由は何か。この方向性で進めることによってまずは行政が考える政策目標をどうやって実現させるのか順を追って説明してもらうのが議員の役目。 ・実現したい最終の効果としての理想値が書いてある。しかしその理想値を手に入れるためにはどういう事業をして、その事業はなぜ理想値を実現させて

	くれるのかということの説明してもらうのが議員の役目。 ・提案された方向性と手段、目標の3つがいかに論理的につながっているか。どれだけのお金を使って、どれだけのことをしてそれによって社会がどう変わっていくのか説明してもらう。
所 感 等	【重野正毅】 あくまで政策・施策・事務事業の目的は住民の福祉の増進であるなら、取り組んだ施策や事務事業が目的達成すると考えた理由だったり、その事業を選んだ理由だったり、総合計画で課題解決のために立てた方向性の理由などを確認していくことは必要なことだと思う。 議員として集まったデータの処理や分析をしていくためには統計処理の勉強をすることも必要だと思った。ステークホルダー分析や SWOT 分析など様々な分析方法を駆使して行政の取組を多角的に見ていくことで、柏崎としての地域の強みを見えてきて行政として重点的に力を入れるところが分かってくる。行政から示された資料だけで質疑を交わすだけではなく、その事業をする理由の確認も大切だと思った。